

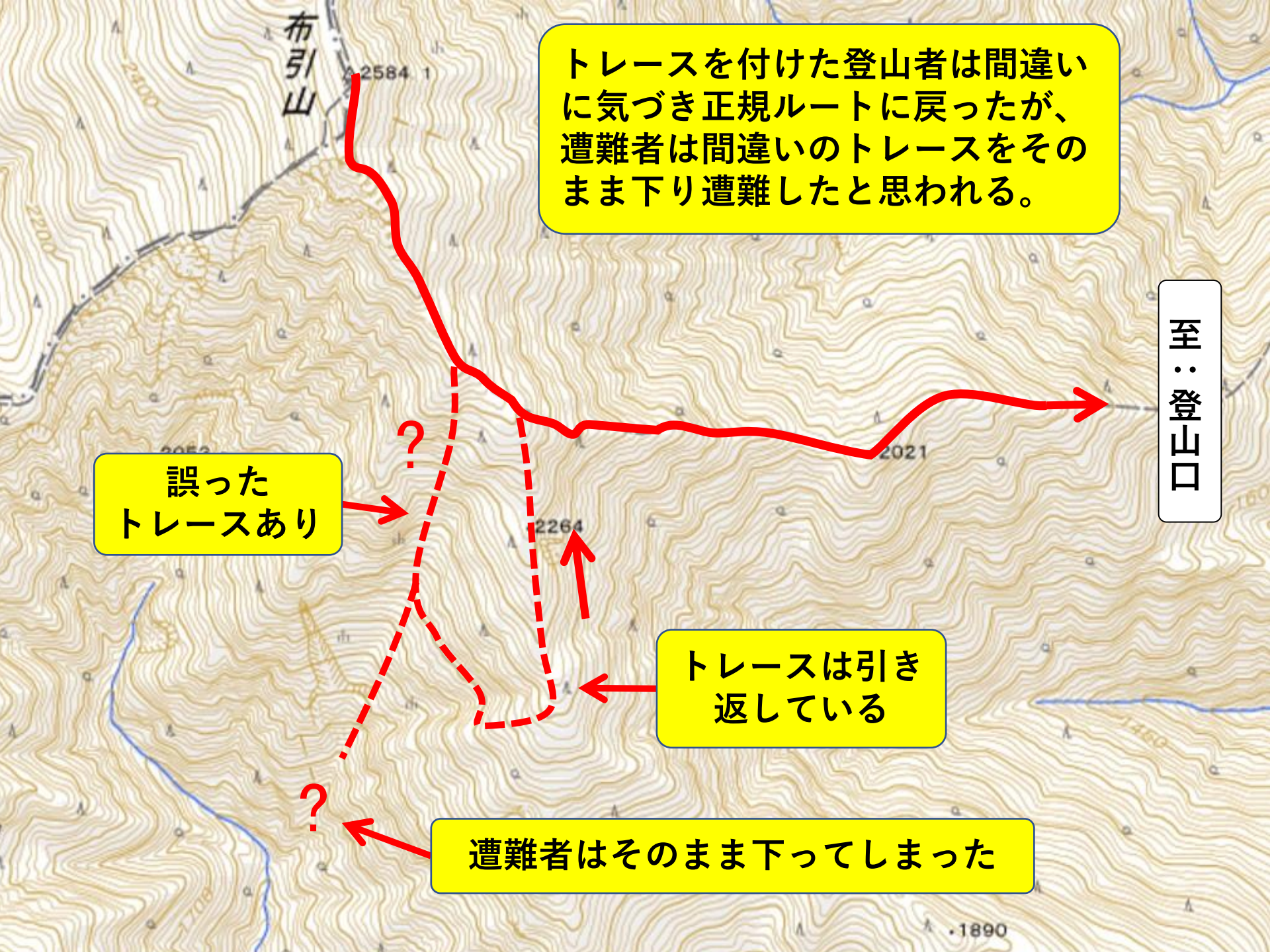
トレースを付けた登山者は間違いに気づき正規ルートに戻ったが、遭難者は間違いのトレースをそのまま下り遭難したと思われる。

至：登山口

誤った
トレースあり

トレースは引き返している

遭難者はそのまま下ってしまった



積雪期に策ヶ岳～布引山の下山の出来事。尾根分岐手前小ピークから点線沿いに間違ったトレースが付いていた。トレースを付けた登山者は間違いに気づき正規ルートに戻ったが、遭難者は間違いのトレースをそのまま下ったと思われる。救助ヘリが搜索したが見つからず、約1カ月後に釣師が発見した。（HP要約）

布引山からの下山は途中の尾根分岐で東の尾根に乗ることが大切なのだが、トレースがついているとそのトレースを頼りに歩いてしまう。

単独で残雪期であれば、なおさらトレースを頼ってしまったのかもしれない。尾根上を歩かないと正規ルートではないのだが、遭難者は沢で発見されている。道迷いは何故か高い確率で沢に迷い込んでしまう。道迷いの不思議である。

大切なのは『①尾根上を歩く。②東へ進む。』といった「地図の先読み」をすること。地図の先読みをしないと何も考えずに歩いていることになる。

「この先に道があるはずだ」という願望だけの行動では道迷いの解決にはならない。